

315

特254

147

平和主神武天皇



始



特 254  
147

目次

1

○平和の必要なる所以……………一

○二種の生命……………三

○創造者なる主神……………五

○進化上に見えたまふ主神……………六

○發育上に見えたまふ主神……………九

○歴史上に見えたまふ主神……………二〇

○日本帝國が主神に愛護せられたる所以三

○神武天皇……………一九

○ダビテ王に賜ひし祝福の繼承……………二二

○イエサヤの豫言……………二六

○正義の權威と仁愛の權威……………三二

○一家庭となりたる世界……………三三

○イエス・キリストの守りたまふ道……………三五

○世界一家及神人合一の宣言……………三六

○無價値なる三民主義……………三九

○孫文の略歴……………四

(附 録)

一 イエサヤ豫言の獨譯文……………四九

二 信神忠孝是我道……………五三

○孝友の道……………五五

○マルクスの共産主義……………五五

○神性と人性と獸性……………五七

○誠律を破るマルクス主義……………五九

○神性と永生を妨ぐる誘惑……………六〇

○マイエルの所説……………六二

○勤儉の動機……………六三

○親心と孝心……………六五

○貴要なる孝行……………六六

○信仰と忠孝の生活法一斑……………七三

# 平和の主 神武天皇

## ○平和の必要なる所以

生物の最も大事なものは生命であります。其の生命を安全ならしむる者は平和であります。平和の擴大したるを幸福といひます。平和と幸福は人の希望する所でありますが、平和がなければ幸福がありません。平和があつて初めて幸福があるのであります。生命の代表者である吾らは生命の安全の爲に平和を求め又平和の擴大の爲に幸福を求めます。

今日は日支事變一周年に當りますが、昨昭和十二年九月第七

十二議會開院の際に天皇陛下の賜りたる勅語に『帝國と中華民國との提携協力に依り東亞の安定を確保し以て共榮の實を擧ぐるは是れ朕が夙夜軫念措かざる所なり(中略)是れ一に中華民國の反省を促し速に東亞の平和を確立せむとするに外ならず』と即ち今事變の歸着する所は東アジヤの安定平和であらねばならないのであります。又今日賜はりたる勅語に『惟ふに今にして積年の禍根を斷つに非ずんば東亞の安定永久に得て望むべからず、日支の提携を堅くし以て共榮の實を擧ぐるは是れ洵に世界平和の確立に寄與する所以なり、官民愈々其の本分を盡し艱難を排し困苦に堪へ益々國家の總力を擧げて此の世局に處し速に所期の目的を達成せむことを期せよ』とありまする如く本戰鬪の結果は當に東亞の安定と世界の平和を來たす

べきであります。即ち東亞及世界の人々の生命の安全の爲に日本は今非常に大なる努力を爲しつゝあるのであります。

### ○二種の生命

抑も人の生命に二つの種類があります、即ち肉體の生命と靈魂の生命の別であります。就中肉體の生命の百歳に達するは稀に見る所でありまして、百五十歳を超ゆるは殆どありませぬが、靈魂の生命は幾千年に達する事罕ならずして、萬歳も萬々歳も持長し得べき者と信せられます。靈魂の生命は肉體の生命に於て養成せられるのでありまして、永生に達すべき動力を肉體に於て蓄積するのであります。『健康なる身體に健康なる精神あり』、Mens sana in corpore sano なる語は幾分其の間の消息を語るものであります。身體は實に靈魂の

生命の根本と成りますけれど、靈魂の生命の長さは肉體の生命の長さに正比例する者ではありません。肉體の生命は短くして靈魂の生命の長き人あり又肉體の生命の長くして靈魂の生命の短い人があります。甲の實例はイエス・キリストに於て見ます、即ち其の肉體の生命は僅に三十歳にして終りましたに拘らず、其の靈魂の生命は非常に長くして、今尙ほ光榮ある生活を爲られつゝあります。又乙の實例は神の誠に背いた以後のアダムとエヴァであります、其の肉體は生きて居ても靈魂は死んで居たのであります。すべて主神に背ける人は生ける屍なのであります。靈魂の永生の要約は天の御父様即ち天祖主神の御意に叶ふに在ります。吾らの良心は主神の寶座であります、良心に於て主神が差圖したまふ所に隨ひ、肉體を使

用して行かねばなりません。

### ○創造者なる主神

抑も結果には原因あり、結果にして原因なきは決してあり得ません。さて天と地と人は結果であります、其の原因を究はめませれば之を造りたまひし主神を認識せざるを得ないのであります。人には智力又は理智がありますから、自己と自身の原因なる主神の實在を推知することが出来ます。既に主神の在ります事を認識する以上、直ちに感恩と崇敬の念の生ずるは當然であります。理智の未だ發達せざる幼稚者や、或る種の腦病者や凡ての獸類等は低能ですから、其の機能を缺いて居ます。又唯物論者 Materialismus 及汎神論者 Pantheismus は主神を否定し、之を蔑にして居ますから感恩崇

敬することなく、不敬罪を犯して居るのであります。

主神は嘗に太初に天地を造りたまひしのみならず、爾來今日に至るまで司配し且つ創造しつ居らせらるる事は生物の進化と發育及人類の歴史が之を證明します。

### ○進化上に見えたまふ主神

先づ生物の進化の上に主神の關涉しつありたまふを窺ひますれば、地球は最初一つの火の球でありましたのが、熱を發散するに連れて冷却し、周圍に地殼即ち土の皮を被り又其の上に水が沈澱して滯りましたが、水の溫度がC式五十度以下と成つた頃に初めて生命が造られたのであります。即ち生命があるプロトプラスマ Protoplasma (元形子、原形質) が造られ、新陳代謝と運動と對應と生

殖等生活現象を顯はす細胞が發生しました。細胞には核と體の差別がありまして、核が生命の根本と成り、體は核に従ひ且つ協力します(斯様に生物には既に原始状態に於て君臣、主従、治者被治者の差別を爲して居ます)。生物が無生物に優つて居る事は顯著であります、例へば草木に在りて其の根は土壤の抗抵に勝ちて延長し、其の莖幹は重力に勝ちて向上し以て著く生命の能力を發揮して居ます。動物の活力は更に顯著であり、就中下等より段々高等に進化して居ります。生物の中、一個の細胞が一個の生物と成つて居るのがあります、細菌や滴蟲などは其の例でありまして、之を微生物と云ひます。又數多乃至無數の細胞が相合して一個の生物と成つて居るのがあります、之を高等生物と云ひます、草木、蟲魚、鳥獸等が其

の例であります。高等生物は其の諸細胞の協力と分業に由りて多少優等なる機能を發揮します。就中草木に比して蟲魚が優り、蟲魚に比して鳥獸が優り、鳥獸に比して人類が優つて居ます。其が段々進化したのである事は地質學上其の發生の時期に照らして推定せられます。其の進化には必ず創造的勢力を要すると考へられます。人類は比較的近代に創造せられたのでありまして、猿人 Pithecanthropus 即ち言語なき人 Alali が五十萬年前に生じ、十五萬年前より石器の使用を始め、二萬五千年前に今日の人類即ち理智ある人 Homo sapiens が生じたのであります。石器時代が進歩して銅器時代と成り、更に進んで鐵器を使用することとなりました。六千年前より文字あり歴史を始めましたから、文化が非常に著く進んで今日に至つたのであ

ります。是は決して只人力のみで出来る事ではないのでありまして、直接間接に眼に視えぬ主神が其の創造力を注ぎつつありたまふと認むべきであります。

### ○發育上に見えたまふ主神

又生物の發育の上に主神の關涉しつつありたまふを窺ひますれば、一粒の小さき種を播けば多少大なる草木が發育して數多の果を結ぶ事は創造的勢力の注入せらるるを示すのであります。人體に在りても精子(精絲、精蟲)なる一個の細胞が一個の卵細胞と合すれば活潑なる新細胞の分割増殖及組織器官の形成發育を爲し、四十週にして分娩するや初生兒(赤子)と成り、更に生長して幼兒、童兒、少年、青年、壯年と成るは創造的の御力を主神が発現したまふに外

ならないのであります。

### ○歴史上に見えたまふ主神

又人類歴史の上に主神の關涉したまへるを窺ひますれば、古今萬國の歴史を通じて信賞必罰なる主神の嚴然たる御存在を認識する事ができます。例へば天祖主神に極めて忠孝を行はれしイエスを惡み奉りて、讒誣中傷して罪人扱を爲し、群衆を唆かして『十字架につけよ』と叫ばしめ、輿論の力を以てローマ政府の代表者を動かし、遂に神のキリストを磔刑に處せしめたるユダヤ國は四十年を経て、滅亡し、爾來其の國人は亡國の民として他國に寄寓して今日に至りました。實に憐むべきであります。又當時のローマ皇室は其の後も甚しき背徳に陥りしに由りて紀元六十八年に早く既に其の跡を

絶つたのであります。コンスタンチンなるローマ皇帝(三三四乃至三三七年)が立つに及びてキリスト教を信奉し、復活したまへるイエス・キリストに従屬することとなりました。又其の他の國々を見渡しますれば主神の御意に叶ふ國は興り、御意に叶はざる國は廢れ、或は亡びました。又御意に叶ふて興りたる國も御意に背けば亡ぼされました。獨立王國にして王朝の連續して千年に達せし者は一つも有りません。然るに獨り日本帝國は皇統連續として殆ど二千六百年に達し而して古來未だ一度も不羈獨立を失ひし事の無き、眞に珍らしき國家であります。是れ決して人爲に非ずして天爲であること考へられます。非常に不思議な現象であります。主神が特別の御恩寵を以て日本を愛護したまへるを認めざるを得ません。抑も日本の



如何なる點が主神より愛せられるのでありませう乎。今其の原因について考へて見ませう。

○日本帝國が主神に愛護せらるる所以

凡て人は認識の上には眞を愛して假を惡みます。又倫理の上には善を愛して惡を惡みます。又審美の上には美を愛して醜を惡みます。主神も亦同様に愛惡したまふであらうと推測せられます。眞と善と美の愛すべくして、假と惡と醜の惡むべきは明かであります。眞善美は主神に基づいて、主神より出で來り又假惡醜は惡魔に基づいて、惡魔より出で來る者と思はれます。實に主神の本態が眞善美なのであります。事は聖書の次の句に由りて察することができます。『我を遣したまひし者は眞なり』(ヨハネ二六)。「我は途なり眞なり」

(ヨハネ六)。「神一人の他に善き者なし」(マルコ一七)。「神の榮を顯はすべし」(コリント二〇)。「抑も吾らの心には智と意と情なる三つの作用があります。而して智は眞を求め、意は善を求め、情は美を求めます。其故に吾らの本性は眞善美の本態なる主神を慕ふのであります。又キリスト教では期望と信仰と愛とを三徳とし(コリント前一二の一二二)、儒教では智勇仁を三徳とします(中庸に曰く「知仁勇之三者天下達徳也」)。是らを照らし合はしますれば智と眞と望と智とは相連なり、意と善と信と勇とは相連なり、情と美と愛と仁とは相連なる様であります(仁と愛とが意に基づかずして情に基づく理由は孟子が「測隱の心は仁の端なり」と言つた事と親子や夫婦間の愛は情に基づけるにて明かであります)而して智惠は即ち光明であります。之に由りて

未來の現象を洞察し正しく希望すべきであります（學問、科學は智に基づきます）又意志は善を行はんとて、權能の神に信賴して、勇ましく爲し遂げるのであります（信仰と善行は意に由りて顯はされます）又情感は美を慕び仁愛の動機と成ります（美事美物を慕ひますから美德を行ひ、神を敬愛し、美術を發揮する本と成ります）。

知勇仁なる三徳の優れて居らせらるる御方は通常御父様であります。御父様に三つの位の差別がありまして、家の御父様と國の御父様と天の御父様の三段を分ける事ができます。就中家の御父様は人が幼い時より經驗せる所でありまして、家庭の首長で居られます。家族の人々、殊に子たる者が之を敬ひ、之に隨ひ、之を助ける事は確かに主神の御意に叶ふべきであります。聖書中十誡の第五條に

「汝の父と母とを敬へ。汝の主神の汝に賜ふ地に於て汝の生命の長からん爲なり」（出エシブト二〇の一二、申命五の一六）と記されてあります又孔子は「孝は徳の本なり」（孝經）と説き、又「孝は百行の本、衆善の始なり」（後漢書）の語があります、而して日本人は古來概ね孝道を行つて居ります。又國の御父様は天皇で居らせられまして主神に代りて萬民を指導し保護したまふ事は恰も家庭に於ける父子の關係の如くあります。是れ勅語に「義は則ち君臣にして、情は猶ほ父子の如く以て萬邦無比の國體を成せり」（大正一四年一月一日）と宣へる如くであります。又臣民は御父様に事へる心を以て天皇に事へます。其は「君子親に事ふる孝なり、故に忠を君に移すべし」（孝經）の語あり又「忠臣を求むるは必ず孝子の門に於てする也」

(孔安國註)の語あるが如くであります。日本臣民は古來概ね忠道を行つて居ります。其の武士道なる動作も忠道の他ではないのであります。又國の御父様なる天皇は天の御父様なる主神に絶対の服従を爲したまひ、主神の御意を御身に體したまふて、天佑の伴ふ惟神の道を御行ひ遊ばされます。其は則ち勅語に「天佑を享有したる我が帝國の寶祚」(明治二二年二月一日)及「朕祖宗の遺烈を承け、惟神の寶祚を踐み」(大正四年一月一日)と宣まへる如くであります。現今日本人の極めて重要視せる所は皇道でありますが、皇道とは天皇の御意を行ふ事であります。又皇國の政治の本態は祭政一致即ち神主政 Theokratie (テオクラシー)でありまして主神の御意に隨つて政事を行ふのであります。此の事は既に古代より行はれて居るの

でありまして、天照太神の御父様なる伊裝那岐の尊に始まつて居るのであります。即ち尊が日本群島を御生みに成つたのは天神即ち主神の御命令を奉じて爲されたのであります。又天照太神が天神を崇めて祭りたまひました事は彼の有名なる天の岩戸に御隠れに成りました事變の原因が之を明かにして居ります(古事記、七二二年)。又日本語にては政事を『まつりごと』と言ひまするのは主神を祭る事でありまして、神を祭りて御意を行ふを謂ふのであります。又政なる文字は正義の正と支てふ文字を合はせたのであります。其の支くは軽く支くのであります。即ち軽く肩などを敲いて氣を付け以て其の人の非違を矯さしむる如きを謂ふのであります。然れば日本では政治は隨神と正義を本態として居るのであります。斯の如く日本は

主神に随ひ正義を行ふ神主國(しんしゆこく)(テオクラシー)でありまして、各個人の利権を事とする民主國(みんしゆこく) Demokratie (デモクラシー)とは大なる差異を有するのであります。神主國は靈的であり、キリスト的であり、随神忠孝を事とする者でありますれど、民主國は肉的であり、アダム的であり友愛利権を事とする者であります。是れ主神が特に日本を愛護したまふ所以と考へます。昭和十二年二月八日總理大臣林大將が新内閣施政の五大方針として發表したる其の第一に次の言がありました『一、國體觀念を愈々明徴にし、敬神尊皇の大義を愈々闡明し、祭政一致の精神を發揚して國運進暢の源流を深からしめんことを期す』と即ち同大將も祭政一致の精神の發揚を期したのであります。

### ○神武天皇

日本帝國の創立者なる神武天皇は紀元前七百十一年日向(宮崎縣)の高千穂の御生れでありましてヒコナギサタケウカヤフキアヘズの尊の第四子で居らせられました。御父君の祖父なるヒコホノニニギの尊は天照太神及太神產靈神(たかみむすひ かみ)の御孫でありまして、神命を奉じて高天原より日向に移住なされたのであります。天皇の御本名はサヌの命であります。サ又はサネ(核及實)と同語でありまして核心(かくしん)の意義と眞實(しんじつ)の意義を合はせたる御名であります。是は天皇たる御方に最も應(ふさ)はしき御名であります。カムヤマトイハレヒコの命てふ尊稱は帝位に御登りの後に用ひられました。又神武天皇なる尊稱は紀元七百八十一乃至五年の頃桓武天皇(くわんむ)の命を奉じて淡海(あうみ)の眞人三船(まひとみふね)(大

學頭、文章博士、刑部卿)なる人が撰せんしたのであります。神武とは武力に優れたたまへる事が神の如くなるを謂いひます。又天皇が嘗かつに武力に於てのみならず又智力に於て優れたまひし事は『天皇は生れながらさかしう(明達)、意かたくつよし』(日本書紀、七二〇年)と記された如くでありまして叡智明達えいちめいたつにして御意志堅剛おんいしけんかうに居らせられたのであります。天皇は第四男で居らせられしに拘からず、拔ぬんでられて、太子たいしと成られました、時に御齡十五歳おんよわいでありまして、ユダヤ國ダビデ王朝第十五代マナセ王の即位後第二年に當ります。紀元前六百六十六年主神の御導きに由り、日本帝國の創立を御意ひ立ち遊ばされ而して七年目即ち六百六十年には既に之を達成し、大和(奈良縣)の橿原かしはらに於て天皇の位に御即きに成つたのであります。天皇が

帝國御創立の動機として傳へらるる所に據りますれば遠隔えんかくの地方が王澤わうたくに潤うるほはずして各地かくちの君長くんちやうの相凌あひりようれき轢たせるを嘆たんせられ、國くにの中央ちゆうわうに都みやこを開いて普あまねく統治とうちしたまはんが爲でありました。御出征第六年橿原に宮を建てたまはんとしての詔の一節に『正を養ひ』の御語がありまして、正義を重要視したまひしを窺はれます。又『八紘を被ひて宇と爲す』の御語がありまして、宇内を統一して一家庭の如く爲したまふ御志を示されました。天皇はユダヤ王國が具體的に全滅したる年の翌年即ち五百八十五年に登遐とうかせられました、皇統は連綿として第百二十四代の今上天皇陛下に御達しに成つたのであります。

○ダビデ王に賜ひし祝福の繼承

公知こうちの如く紀元前一千年頃即位せしダビデ王はヤーエー即ち主神

より王室及王位の永久に存立すべき勅語を受けました、即ち神は『汝の王室は常にわが前に存在すべし、汝の王位は永久に確立すべし』(サムエル後書七の一六)と豫言者ナタンを通して約束せられた。然るに第十五代マナセ王の時代に至り豫言者らを通してユダヤ國の廢滅をヤーエーより宣告されました。即ち聖書に『是に於てヤーエー其の僕なる豫言者らを以て語り言ひたまはく、ユダヤの王マナセ之らの憎むべき事を行ひ、其の前に在りしアモリ人の凡ての爲せし所にも踰えたる惡を爲し又ユダをして偶像を以て罪を侵させたればイスラエルの神斯く言ふ、視よ、我エルサレムとユダに災害を降す。之を聞く者は其の耳兩つながら鳴らん。我サマリアを量りし繩をエルサレムに施し、人が皿を拭ふて、之を拭ひ反復する如く、

エルサレムを拭ひ去らん。我が産業の民の殘餘を棄てて之を敵の手に付さん。彼らは其の諸の敵の虜掠に逢ひ、掠奪に遭ふべし。是は彼ら其の先祖らがエジプトを出でし日より今日に至るまでわが目の前に惡を行ひて我を怒らするが故なり』(列王紀略下二一の一〇—一四)と録しるされてあります。神がダビデ王に對して其の王室と王位の永久性を宣告せられしに拘らず、更にユダヤ國の滅亡を宣告し且つ之を實行せられた事は非常に奇異なる現象であります。主神は決して食言又は違約なさる筈がありません。萬一神が食言違約したまふ事が有つたならば大變であります、恐らく天地は眞暗らに成るでありませう。然らば右の如き前後の御宣言の矛盾むじゆんいかは如何に解釋かいしゃくすべきでありませう乎。聖書に『然れど吾らの神の言は永遠に立たん』(イ

エサヤ四〇の八)とあります又パウロも「常に眞實なる神」(テトス一の二)と云つて居ります。又『綸言は汗の如し』てふ諺もあります。然れば次の如く解釋すべきであります。即ち主神よりダビデ王に對して約束したまふたる王室及王位の永久性は神武天皇及皇室に於て繼承せられたのであります。神の大御心は人類の小さき智慧を以てしては兎ても悟り盡し得べきに非ざれど、神は政治的キリストの職務をダビデ王朝より轉じて神武天皇及其の皇室に命じたまふたのであると信せられます。是れ一つの進化的現象でありまして、恰も聖書の舊約が進化して新約と成し如く、ダビデ王朝が進化して神武天皇及其皇室と成つたのであります。神武天皇は主神がダビデ王を祝したまひたる其の永久性を繼承したまひたるも決してダビデ王の子孫に

非ざる事は當にイエス、キリストの闡明せられたるが如くであります。即ち聖書に『イエス宮にて教ふる時答へて言ひたまふ』何故學者らはキリストをダビデの子と言ふ乎。ダビデ聖靈に感じて自ら言へり、「主わが主に言ひたまふ、我汝の敵を汝の足の下に置くまでは我が右に坐せよ」と。ダビデ自ら彼を主と言ふ、されば争で其の子ならんや』(マルコ一二の三四—三七)と録されてあります。尙ほ聖書が主神の御言なる事は古來無數の人々の確信せる所でありまして、其の一例は昨昭和十二年五月ロンドンに於て行はれたる英國皇帝陛下の戴冠式に際して司式者(カンタベリー大監督)は『(前略)凡て是らは活ける神の言なり』と言ひつつ聖書を新皇帝に献上し、皇帝陛下は之を聞こしめされ、親しく御手を其の聖書に措き、之に接吻し

て之を嘉納かほうあらせられた事であります。

### ○イエサヤの豫言

日本帝國の勃興及發達はつたつが主神の御意に基づく事に就いてはイエサヤの豫言よげん(イエサヤ九の五—六)が之を明かにして居ります。

『一兒は吾らの爲に生れたり。一男子は吾らに賜ひたり。其の肩かたの上に統治の政權は降さる。其の名は神智、神武、恒久の父、平和の主と稱へらる。ダビデの王位の上に統治の政權は増し加はり又其の王國の上に平和は窮り無し。彼は正と義とを以て之を立て且つ強め今よりして永遠に至る。全能の主の熱心は斯の事を成就したまふべし』。

右豫言の要旨は

- (一) 一男子が吾らの爲に賜物として生れたまひし事
- (二) 其の人が統治的政權を擔ひたまふべき事
- (三) 其の御名は神智、神武、常父及平主なる事
- (四) ダビデの王位の上に權威は増大し、王國の平和は恒久的なる事

- (五) 彼は正と義とを以て國を立て且つ強めたまふ事
- (六) 斯くの如くして永遠に達すべき事
- (七) 全能なる主神が熱心に斯の事を成就したまふべき事の七項であります。本豫言はエルサレムに於て紀元前七〇一年頃に述べられたのであります。

右各項について詳しく説明しますれば



第一項は御生れになつたと過去動詞を以て記されてあります而して其の時第十一歳で居らせられた神武天皇に應ずるのであります。六百年後に御生れに成つたイエス、キリストには應じないのであります。豫言の實現を確信して過去動詞を用ひたのであると説く者もありません。著者らの同意せざる所であります。

第二項は政權を擔ひたまふ豫言でありまして、政治的キリストを指して居ます而してイエス、キリストは常に政治的キリストたる事を避けて居られました(此の事については後文に詳説します)。

第三項は其の御名を示してあります。名は實の賓でありまして御名は御本態を表はします。

(イ)神智即ち極めて叡智に居らせられた事は歴史上に明達意強と

録せる事と大業の企圖及成績の卓越なる事が之を證します又其の勅語に於て御示になりたる動機と目的の明達も之を明かにします。

(ロ)神武即ち武力の卓越なりしは能く諸種の困難に勝ちて短期間に海内を統一せられし事が之を證します。豫言中に天皇の御名を明記してある事は實に一大奇跡であります。

(ハ)常久の父即ち御父様の御意を以て臣民を愛護せらるる事の恒久的なるは日本天皇の實相でありまして、近世(大正四年十一月)の詔に『義は君臣にして情は父子の如し』とあるが如くであります。

(ニ)平和の主なる事は政治的キリストの極めて重要とせらるる御作業でありまして、中央政權を確立し、正義を實行せしめたまふに由りて眞實の平和が確保せらるべきであります。

第四項はダビデの王位即ち政治的キリストの權威の擴大する事に由りて、國內の平和が恒久的と成るを謂ひます。

第五項は日本天皇は正義を以て國を立て且つ強められました。之を證明するは聖書と事實とであります。曾て専ら自己らの利權を事とするユダヤ人らがイエス、キリストを誣ひて遂に十字架に付けたる如く、神武天皇を誣ひて十字架に付くる事無からん様祈ります。一億の同胞らと同心協力して正義の光を發揚したいと意ひます。

第六項は斯様にして永遠に達するを謂ふのでありまして、既に殆ど二千六百年の長きに亙り、光榮ある歴史を保続したる今日は此の豫言の正確を明かにします。本項は曾て太神産靈神と御同席にて天照太神が皇孫ニニギの尊に「幸に寶祚の榮え在さんこと當に天地と

同に究りなかるべし」(日本書紀)と仰せられし勅語と符合します。

第七項は全能なる主神が熱心に之を成就したまふ事でありまして、恰も證書に之を確かむる奥書あるが如く本豫言の確實性を明示してあるのであります。本項に由りて日本帝國の今日あるは決して偶然にあらずして主神が熱心に關涉愛護したまへるを今更の如く悟り得て感激する次第であります。

### ○正義の權威と仁愛の權威

主神は正義にして仁愛に居らせられます事は聖書に「主は其の凡ての途らに於て正義にして、其の凡ての行爲に於て愛なればなり」(詩一四五の一七)又「神は即ち愛なればなり」(ヨハネ一書四の八)とあるが如くであります。又神國は吾らの理想郷でありまして、主神

の御意の普及徹底する所であります。之を組織するに正義と仁愛を要します而して主神は正義を經とし仁愛を緯として之を組織したまひます。而して御意を實行したまふには權威の發動あるを要します、即ち正義の權威と仁愛の權威であります。而して正義は政治と武力に由りて達成せられ、仁愛は獻身と奉仕に由りて達成せられます。正義の尊重すべき事は恰も汽車發着時刻の正確を要するが如くであります又仁愛の重要なは恰も老幼や病弱者を介抱して適正時に汽車に乗らしむるが如くであります。正義の權威と定められたまひしは神武天皇及其の皇室でありまして、仁愛の權威と定められたまひしはイエス、キリスト及基督者であります。正義と仁愛は同時に主神の御意でありますから、神武天皇とイエス、キリストは極めて

て親密に相協力したまふのであります。

### ○一家庭と成りたる世界

又政權は一つに歸するを要します。若し二つ以上並び立つ時は衝突と不安定を免かれないのであります。故に世界の政權は神武天皇に由りて統一せられ、各國の政權は之と協力し調和するを以て主神の御意に叶ふと信じます。政權が統一せらるれば世界の平和と幸福は大に促進せられるであります。軍備は撤廢せられて、唯警察的程度の武備を存するのみと成るべきです。又諸種の産業も主神を中心として家庭的に行ふ時は營利の爲にせずして仁愛の爲に産出して、産物を廣く全世界の必要方面に配布することとなります。斯の如くして有無相通じ長短相補ふて相互幸福を擴大することを得ます。併

し各自の作業能力に限りがありますから、物品又は勞力の授受に際して其の授受の勞力量を録せる覺書おほえがきを授受しますれば又其の覺書を以て他の物品を受取ることができません。即ち紙幣を通貨として勞力交換を爲すのであります。但し勞力不足なる病人や老幼に對しては家族的に無報酬にて扶助すべきは勿論です。斯の如くすれば金銀は貨幣としての用なくして、唯器具や裝飾の用に供せらるることとなります。又家庭内には關稅障壁は撤廢せらるべきです。言語もエヌペランド語の如きを普及させたいと思ひます。右の理想は神武天皇とイエス、キリストを受肉主神じゆにくぬしがみと認むる事に由りてのみ實現せらるると信じます。斯の事を認容すれば何れの國家及何れの宗教團體も即時其の儘にて加盟し得らるべきです。而して諸國家及諸宗團の首長

は何れも最上の權威を認むるに由りて其の内外に對して自ら安定を得る所あるべきです。

#### ○イエス、キリストの守りたまふ道

イエス、キリストが自ら仁愛の權威を以て任せられ、奉仕、獻身及救濟を事とせられ而して御自身以外に政治的權威者あるを認められ、御自身は政治に關係するを避けられし事は聖書の左の句が示して居ます。

(一)『カイザルの物はカイザルに獻じ、神のは神に』(マルコ一二の一三—一七)。

(二)『人もし汝に一里の公役を強ひなば之と共に二里行け』(マタイ五の一)。

(三)『銀貨一つを得ん、其を取りて我と汝との爲に納めよ』(マタイ一七の二七)。

(四)『我は汝らの中にて事ふる者の如し』(ルカ二二の二四—二七)。

(五)『誰が我を立てて汝らの裁判人又分配者とせしぞ』(ルカ二二の二三—二四)。

(六)人の子の來れるも事へらるる爲に非ず、却つて事ふることを約し、又衆くの人の贖償として己が生命を與へん爲なり』(マルコ一〇の四五)。

(七)『悪魔又イエスを最高き山につれゆき、世の諸の國と其の榮華とを示して言ふ「汝若し平伏して我を拜せば、此等を皆汝に與へん」爰にイエス言ひたまふ、「サタンよ退け、主なる汝の神を拜し、唯

之にのみ事へ奉るへし』と録されたるなり』(マタイ四の八—一〇)。

(八)『イエス彼らが己をとらへ、王となさんとするを知り、復一人にて山に遁れたまふ』(ヨハネ六の一五)。

(九)彼は衆くの人の罪を負ひ、愆ある者の爲に執成を爲せり』(イェサヤ五三の一—一二)。

(一〇)健かなる者は醫者を要せず、ただ病める者之を要す。我は正き者を招かんとにあらで、罪人を招かんとて來れり』(マルコ二の一七)。

(一一)凡ての人、上に在る權威に服ふべし。そは神に由らぬ權威なく、あらゆる權威は神に由りて立てらる。(中略)されば服はざるべからず、雷に怒の爲のみならず、良心の爲なり』(ローマ一三の一—七)。

以上に由りて明かでありまする如く、イエス、キリストは奉仕と献身を以て心身の病者弱者を醫治し救済せらるる救世主でありまして、政治と武力を以て善人、義人を保護せらるる神武天皇と御協力の上、神國を完成せらるべきであります。神武天皇は君主として、治者として、現世に於ける審判を行ふの使命を有せられ、イエス、キリストは臣民として、被治者として最善の模範と成りたまひ且つ來世に於ける審判主と成りたまふのであります。

### ○世界一家及神人合一の宣言

神武天皇及イエス、キリストは共に救世主にして世界の統一を期したまひます事は次の御言に由りて明かであります。

神武天皇宣はく。

「上は天神が國を授けたまふの恩寵に應へ、下は皇孫が正を養ひたまひし御意を擴めん而して六合を兼ねて都を開き、八紘を被ひて宇と爲さんこと善からざらんや」(日本書紀)。

イエス、キリスト宣はく。

「我彼らの爲のみならず、其の言に由りて我を信する者の爲にも願ふ。是皆一つと成らん爲なり、御父様、汝我に在し、我汝に居る如く、彼らも我らに居らん爲なり、是汝の我を遣したまひしことを世の信せん爲なり。我は汝の賜ひし榮光を彼らに與へたり、是我らの一つなる如く、彼らも一つと成らん爲なり」(ヨハネ一七の二—二二三)。

### ○無價値なる三民主義

眞善美はテオクラシーに在りますけれども、デモクラシーには認め難い様です、蓋し甲は靈的でありキリスト的でありますが、乙は肉的でありアダムの的であります。孫文の首唱しました三民主義なる者もデモクラシーに屬します。三民主義とは民族主義 Nationalism 民權主義 Democracy 及民生主義 Socialism でありまして、之を略説しますれば、

民族主義とは自然の公理に基づく王道に従ひ、同民族の團結を鞏固にし、列國の壓迫を打破して、獨立自由を確保し、遂に世界大同主義を完成するのであります。併しながら孫は日本が支那と同一民族である事を悟らなかつた様であります而して支那人のみを同民族と稱して居るのであります。が、西藏人や、蒙古人や、滿洲人を同

民族と認むるならば日本人は漢民族に其らよりも一層近い民族でありますことは孫が數多の親友を日本人中に有したるにて明かでありますまい乎、又王道國家を立つるには前提として國王を要します。國王なき王道國家は實際に成立し得ないのであります。天皇を戴く事に由りて初めて王道樂土の實現を期すべきであります。細胞にさへ天皇なる核心があつて細胞の生命が保たれ且つ延長するのであります。有色人種は一般に白哲人種から壓迫せられ、榨取せられてあつたのでありまして、白哲人の到る所之を發見と稱し、有色人の先住せるを眼中に置かなかつたのであります。然るに明治三十八年日本がロシヤに勝つて以來初めて黄色人が白哲人と對等人間と認めらるることと成つたのであります。併し世界大戰後ウエルサイユ會議に

於て日本の委員より人種平等論を提案しましたが採用する所とならなかつたのであります。同民族が白人の壓迫を免かれんことは眞に望ましい事でありませぬ。之が爲には同民族が眞に相和し相援けて世界の平和確立の爲に猛進しなければなりません。

民権主義は極めて幼稚なる考案でありまして、各人民は平等に四権を保有する者と定めてあります。四権とは選舉權（代議士を選ぶ是れ一般立憲國に行はれある所）の他に罷免權（官吏を罷免する權）、創說權（法律の創設と廢止）及復決權（議會不通過の法律案を人民公決で成立せしめ得）の三つを新案したのであります。又民衆の監督の下に政府を置き、之をして五權憲法に由りて政務を執らしめます。五權憲法と申しまするは立法、司法及行政の他に監察（國政の監督）

及考試（國家試験）を獨立させたのであります。是は國內を紛擾に陥らしむる者でありまして、忌避すべき惡制度であります。『えらがる人らの間には争が絶えない』。『Unter den Stolzen ist (es) immer Hader』の諺ある如く四權所有民らの間には紛争の絶る時無かるべきです。又實際に於ても其の通りでありました。

民生主義とは全國民の衣食住の程度を平等ならしむるを目的とし、共產主義に近い所もありますが、マルクスの如く闘争に由らずして漸進的に國家社會主義的經濟政策を行はんとするを以て其と異なりと致しまする。此の主義に由りますれば三井や、三菱やロッキンフェラー財團の如き國家又は人生に有益なる財團の存在を許さない事となります。此の主義に立つて居ますから孫は千九百二十四年共



産黨と連結してロシアの援助を受けたのであります。

以上の如く三民主義なる者は幼稚なる机上の論でありまして、取るに足らないのであります。之を首唱したる

### ○孫文の略歴りやくれきを述べますれば

孫文、字は逸仙、中山と號しました。一八六六年廣東省香山縣に生れ、一八七九年十三歳にしてハワイに渡り、同地に商業を營める兄の元に寄宿し、キリスト教傳道學校に學びましたが、儒教に背く所あるに由りて、十八歳故郷へ追ひ返されました(其の傳記に「基督教を信奉して支那の舊學を顧みず、其兄怒り逐ふて國に歸らしむ」とあります)。其の翌年香港に學び、更に一八八七乃至九二年香港醫學專門學校に學び次でマカオに至りて醫術開業しました。之より先き

一八八四年清佛戰爭の結果、安南が佛國の領土と成りましたのに奮慨し、清朝の頼むに足らざるを見て革命を企て、同志の者らと畫策する所がありました。一八九四年日清戰爭の初にハワイに在りて同志者を募り事を擧げんとしましたが應募者が少なくて止めました。一八九五年廣東方面に於て反清運動を企て失敗に終わりました。其の後脱走して日本及ハワイを経て北米に行き、翌年ロンドンに渡りましたが、同地で支那公使館の手に捕へられました。併し曾て香港醫學校の教師であつた一英人の斡旋で解放せられ、暫く同地に留まり、一八九八年末轉じて日本に來り、民間の志士と相交はり、其の援助を得て益々革命の志を固めました。一九〇〇年北清事變に際して其の同志者が廣東省で擧兵しましたが失敗しました。一九〇三年孫は

日本より安南に行き、翌年更に日本を經由してハワイ及北米に渡り、一九百〇五年歐洲に轉じて、ブラッセル、ベルリン、パリ等に支那留學生を集めて宣傳に勉め、更に日本に歸つて黃興、宗教仁等と相會して、東京に於て中國同盟會を組織し、清朝を倒して中華民國てふ新國家を立つるを議決しました。清國政府は日本政府に依頼して同盟會を壓迫する手段を廻らしましたから、一九〇六年孫は暫く日本を去つて安南に入り、河内市を根據として計畫を續け、數度廣東方面に於ける革命運動を企てましたが、何れも失敗に歸しました。又安南にも永住することができなくなり、一九〇八年北米に行き、革命資金を募集し又翌年マライ方面の華僑の間に奔走して資金を集め、次で北米に歸り、一九一〇年更に英國に渡りて遙に革命

黨の援助を爲しました。一九一一年武昌舉兵に由る革命が勃發しました。孫は英國より佛國を経て急ぎ上海に歸り、中華民國臨時大總統に推舉せられました。其の翌年北京の清國政府と南京の革命政府との間に和議が成立しまして宣統帝（溥儀、清朝第十一代帝、齡六歳）を退位させ、總理大臣袁世凱が大總統と成り、孫は其の職を袁に讓る事と定まりました。翌年孫は討袁軍を起して第二革命を爲さんと思いましたが、袁に鎮壓せられて日本へ逃れました。一九一六年袁が病死しましたから、孫は翌年より一九二三年まで第三度目廣東に政府を立てて北京政府に對抗しました。而して自ら大元帥と稱して北方討伐を主張しましたが、北京政府が優勢であつて、志を伸ばすを得ませんでした。同時に廣東政府に内訌を重ね、一九一八年孫

## イエサヤ書九章五及六節の獨文

(括弧内には譯者の名と書の發刊時を示す)

(Nach Bernhard Duhm, 1922)

Denn ein Kind ist uns geboren,  
 ein Sohn uns gegeben,  
 Und kommen wird Herrschaft auf seine Schulter,  
 Und genannt wird sein Name  
 Wunderrat, Heldengott, Vater der Beute,  
 Fürst des Friedens  
 Und gross wird sein die Herrschaft und des  
 Friedens kein Ende  
 Auf dem Throne Davids und für sein Königtum,  
 Indem er es feststellt und es stützt  
 Mit Recht und Gerechtigkeit von nun an bis in  
 Ewigkeit:  
 Der Eifer Jahwes wird das vollbringen.

は大元帥の職を辭して、七名の總裁の合議制と成り、次で一九二〇年內政外交一切を擧げて之を北京政府に移しました。然るに孫は翌年別に政府を立てて自ら大總統と成りました。一九二三年中國國民黨を作りました。其の翌年には中國共產黨と國民黨とが合同して、ソビエットロシアの援助を受ける事と成りました。(孫は民族主義を唱道しながら、猛獸の如き外國他民族の援助を借りて、國內同民族の打倒を圖つたのであります)。同年北京に段祺瑞を中心とする執政政府が設けらるるや、孫も招かれて北上するに決し、日本に立ち寄りて、天津に入りました頃、持病の肝臓病が増劇し、一九二五年三月北京の客舎で死去しました。享年六十でありました。孫の醫術の巧拙は不明ですが、國手としての手腕は賞讃の價値を認むるを得ませぬ。

(Nach Martin Luther, 1909)

Denn uns ist ein Kind geboren, ein Sohn ist uns gegeben, und er heißt Wunderbar, Rat, Kraft, Held, Ewig-Vater, Friedfürst; auf daß seine Herrschaft groß werde und des Friedens kein Ende auf dem Stuhl Davids und in seinem Königreich, daß er's zurichte und stärke mit Gericht und Gerechtigkeit von nun an bis in Ewigkeit. Solches wird tun der Eifer des Herrn Zebaoth,

(Nach Haus Schmidt, 1915)

Ein Kind ist uns geboren,  
 Ein Sohn ward uns beschert.  
 Auf dessen Schulter senkte sich die Herrschaft.  
 Sein Name ward genannt:  
 „Ein Wunder im Rat, ein Gott im Streit,  
 Vater für ewig und Vogt des Friedens“.  
 Weit reicht seine Macht zu endlosem Frieden,  
 über dem Thron Davids,  
 über seinem Königreich,  
 Daß er es baue und festige durch Recht und  
 Gerechtigkeit von nun an in Ewigkeit.  
 Die Leidenschaft Jahves der Heere,  
 die wird es vollbringen!

(Nach Eduard Reuß, 1892)

Denn ein Kind ist uns geboren, ein Sohn ist uns gegeben, auf dessen Schulter die Herrschaft ruht. Er heißt Wunderrat, Gottheld, Ewigvater, Friedensfürst, die Macht zu mehren und Glück ohne Ende, auf Davids Thron und Königreich, es zu festigen und stützen durch Recht und Gerechtigkeit, von nun an und in Ewigkeit— Jahwe Zebaots Eifer vollbringt es!

信神忠孝是我道

(以下昭和十二年十二月所著)

天とは宇宙をいふ。祖(おほちち)とは吾人の本源をいふ。主とは宇宙の領主をいふ。神とは至大の權威をいふ。古來宇宙即ち天を神の御座所と想ひしに由り神を指して天と稱へました。古事記に天神と記せるは創化の三神即ち天の御中主神、太神産靈神及神産靈神を指すので有ますれど、宇宙の領主は唯一でありますから、天の御中主神を指すと解すべきであります。他の二神は恰も頭首に對する兩手の如き關係と考ふべきであります。天の御中主神を簡單に天の主神と稱ふるを推奨します。天の主神は基徳教の神と同一で居らせられます。基徳教では主神を天父又は父神と稱へます。此の意義を同時に

言ひ顯はす爲には天の主神を天祖主神と稱へ奉るを最善と考へます。天父と天祖は同意義であります。

日本精神は隨神道（かんながらみち）でありまして神に隨ふ即ち神意に隨ふを事とするのであります。其の神は八百萬の神々の中の最上の神なる天祖主神である事を心得て居らねばなりません。天祖主神に隨順奉仕する事は既に伊弉那岐の尊も天照大神も御實行に成つたのであります。又神武天皇も明治天皇も深く御信仰なされました。

信する即ち信仰する事は人が神に對する最善の態度でありまして信仰とは神を崇め敬ひ神の恩愛と權力を認めて之に服従し、奉事し且つ運命を委託するのであります。されば隨神は信仰の結果であります。

抑も孝は父母に善く奉事するをいひ、忠は天皇に善く奉事するをいひ、信は神に善く奉事するをいひます。而して忠は孝の延長であり、信は忠孝の延長であります。吾人の行くべき唯一條の道であります。如何なる事情あるも決して脱線してはならないのであります。

### 孝友の道

孝とは父母に善く事ふるをいひ、友とは兄弟に善く接するをいひます。孝行は縦の道徳でありまして之を延長して隨神忠孝と成ります。又交友は横の道徳でありまして之を延長して兄弟、夫婦、朋友の親善と成ります。之を樹木に比すれば、孝道は根幹にして友愛は枝葉であります。されば孝道を離れたる友愛は恰も根幹を離れたる

枝葉の如く枯死を免かれないのであります。故に吾人は隨神忠孝に重點を置き而して之を離れざる程度に於て交友を行ふべきであります。

### マルクスの共産主義

皇國は縦道を重んじ、隨神忠孝の道を進み、其の範圍内に於て夫婦、兄弟、朋友の交友を爲すのであります。マルクスの共産主義は交友を專一として隨神忠孝を度外に置くのであります。否な寧ろ之を排斥するのであります。故に人類の爲に其の有害なる事は極めて明かでありませす。一家は親心と孝心に由りて幸福であり且つ隆昌と成り、一國は君臣上下の大義秩序と父子の親愛に由りて幸福であり且つ隆昌と成り又世界は天祖主神を畏敬する事に由りて、和

氣藹々たる一家庭を結成する事となるのであります。然るに共産主義者は孝道を棄て、専ら友道に由らんとするのであります。から家庭でも國家でも世界でも平和が破壊せられ憎悪と鬭争が止まないのであります。

### 神性と人性と獸性

吾人は神の造りたまひし萬物中の靈長なる者であります。聖書に「神其の像の如くに人を創造したまへり、即ち神の像の如くに之を造り之を男と女とに造りたまへり」(創世記一の廿七)又「ヤーエー神土地の塵を以て人を造り生命の息氣を鼻へ吹き入れたまへり、斯くて人は活ける者と成りぬ」(同二ノ七)とあります。如く吾人は物質と靈魂より成つて居るのであります。而して人性が向上して神の靈

氣即ち聖靈に満つれば神性と成り、之に反して墮落すれば聖靈を失ひ、獸性と成ります。獸性は肉慾を是れ事とするのでありまして、或は食慾(即ち口腹の慾)或は色慾(即ち性慾)或は肉體生存慾(即ち生活慾)に驅使せらるゝのであります。又神性は天祖主神の御意を心として、専ら聖意の遂行を是れ事とするのであります。克己自制とは獸性を退けて、神性に歸するをいふのであり又いましめ(誠)は獸性を束縛して、神性に叶ふ道を歩ましむるものであります。

#### 誠律を破るマルクス主義

マルクスは人々の解放と平等とを叫びました。解放とは束縛を脱することであり、いましめを解くことであり、誠律を撤去することであり、秩序を認めぬことであり、克己自制を解消することであり、

淫行を恣にするのであります。又肉慾を以て思慮なき人間を誘惑して天祖主神に背かしむる事は恰もエデンにてエヴァを誘惑せし蛇の如きであります(創世記三ノ一—廿四。曰く「蛇婦に云ひけるは神眞に汝等園の諸の樹の果は食ふべからずと云ひたまひしや、婦蛇に云ひけるは我等園の樹の果を食ふことを得、然れど園の中央に在る樹の果實をば汝ら之を食ふべからず又之に捫るべからず、恐くは汝等死なんと神云ひたまへり。蛇婦に云ひけるは汝等必ず死ぬる事あらじ、神は汝等が之を食ふ日に汝等の目開け、汝等が神の如くなりて善悪を知るに至るを知りたまふなりと。婦樹を見れば食ふに善く、目に美しく且つ智慧からんが爲に慕はしき樹なるに由りて遂に其の果實を取りて食ひ又之を己と僭なる夫に與へければ彼も亦食



へりこ。

## 神性と永生を妨ぐる誘惑

マルクス主義は私有財産と私人の特権を排斥し、同時に一切の財貨及土地を共有として之を以て各人を扶持し且つ各人平等と爲さんとするのであります。従つて上下の別も男女の別も無く孝行も忠義も信仰も無いのであります。一家には階老同穴を盟へる貞操純潔の夫婦を必要と致しまするが、彼ら男女の離合は甚だ頻繁でありますして「彼らは夕に結婚して朝に離婚す」と嘲る者さへあります（彼らは甚しく家庭を軽視するのであります。彼らは黨員を細胞と呼び其の本部をモスコウ市に置いて各國の細胞群へ司令するのであります。男女間の亂行と他人の財産奪取を餌食として、思慮なき人間を

黨員に引き入れるのであります。良民が彼らの仲間引き入れられて無用有害と成る事は恰も一酸化炭素中毒の如くであります、即ち酸素を身體組織に運搬の役目を爲せる赤血球色素へモグロビンが、若し火鉢の炭火等の發散する一酸化炭素に接觸する時は之と結合してもはや酸素結合運搬の用を爲さなくなるのであります。蓋し血色素に對する酸化炭素の親和力は酸素に比して二百五十倍強いからであります。共産黨は左様に大なる誘惑力を持つて居て到る所に病的現象を惹起するのであります。彼らには貞操なく、貞女烈婦なく、純潔無垢なる處女なく、孝行なく、大義名分なく、主神を畏敬する事が無いのであります（聖書に曰く「主を畏るるは知識の本なり、愚なる者は智慧と訓誨とを輕んず」（箴言一ノ七）「神を畏るるは智慧の

初なり、神聖者に従ふは總明なり」(同九ノ十)。

### マイエルの所説

「共産主義は皆蒙昧なる空想を有すとの批難を受くるは當然である。彼らには人類の性質と健全なる國家經濟並に平和なる文化的社會の肝要なる根本に對して明了なる認識が缺けて居る。彼らには人類行為の眞の發動力と國家經濟の機關的構成に關する理解が缺けて居る。斯の機關的構成は國民の文化的生活と人性の文化的進歩の要約たりし者であつて又將來も其の要約と成るべきである。此の諸關係を全然誤解せるに由りて大なる錯誤に陥り、平等てふ根本的妄想到に陥るのである。彼らは個人的満足の爲に竝に個人及全體の精神的進歩の爲に個人運動の自由性と自己の地位に對する責任意識とが大

なる意義を有する事を識らないのである。彼らは私有財産及相續權の制度が各人修養發達の昂進の上へ、作業の勤勉及節儉心の上へ竝に經濟的生活の不斷の進歩の上へ有益なる干渉を齎すを知らない。衣食住の最下級なる生活ならば各人の物質的平等を實行し得られる。共産主義の實行は凡有る人間を無産者(プロレタリア)の階級に引き下げ、國民に對して文化的生活及文化的進歩を制止するのである」(マイエル大百科辭典)。

### 勤儉の動機

富貴長壽は人の憧るゝ所であります。人は之を得んが爲に思慮し善行するを常とします。善行とは主神を畏れ、忠孝を盡し人を愛み、職務を勤勉し、物資を浪費せず、正直を守り、養生法に背かぬ

等であります。正直にして勤勉且つ節儉すれば其の努力エネルギーの結晶として資産の生ずるを常とします。是れ恩賞として天より賦與せられたる所の者でありまして、決して他人が其の所有権を犯してはならないのであります。然るに共産黨は之を奪取して分配せんと欲するから悪いのであります。曾て左の如き説を爲した人もあります。

其故當時歐洲諸國に於て社會黨の運動が漸く有勢に成らんとするや之を嫌忌することも亦漸く激くなり、殊に其の分配論を以て懶惰者の乞食根性であるとの嘲罵も歐洲人の間には決して珍らしい事ではなかつた(石川三四郎社會主義篇、三宅雄二郎新日本史、昭和二年再版)。

併しレーニンは「人もし働くことを欲せずば食ふべからず」(テサロエケ後書三ノ十)とのパウロの言に基づき「働かぬ者は食ふな」を主張したと聞き及びました。然しながら同主義者の勤勉は決して自ら楽しんで行ふに非ずして、威嚇されて働くのであらうと察せられます。彼らの間には威嚇や銃殺が頻りに行はれた事は周知の事実です。青年者が最初は甘言を以て黨内に引き入れられますが、入黨後には苦き經驗を爲す様であります。

共産黨には富貴の以て人格向上を奨励する者が無いのみならず、彼らは人世より全然富貴を解消するのであります。而して之に代つて出現するのは軋轢争闘であります又風俗の墮落悪化であります。

親心と孝心

世の中に親心と孝心より尊い者はありません。吾人は全く主神と天皇と父母の親心の御蔭で育てられ、生存して居るのであります。親が子を愛するは實に本能的でありまして、他の諸動物(獸、鳥、魚、蟲)にも子を愛すること自身を愛するが如く、否自己以上に之を愛して、其の子の爲には常に勞苦を厭はざるのみならず、自己の危険を犯して之を防護することあるは周知の事實であります。人類には本能と同時に理智の作用がありまして、更に有力なる援助を其の子に與へるのであります。親が其の子に期待する所は、自己の意志を繼ぎ、自己の業を完成し、自己以上に偉大なる作用を爲さんこと或は老後に援助を得ることでありまして、其の際親は恰も農夫が作物に對し、牧夫が家畜に對する打算的氣分を伴ふのであります。世

間の子らの中に其の親に對して孝行なる者の多ければ多い程親が其の子に對する樂い期待が多であります、心を盡して自己の經驗と知識を之に傾注し或は資産を盡して其の發達を完成すべきであります。併し若し不孝なる者、父母に迷惑を懸ける者等の多い時は父母の愛育の熱心は冷却せられ、産兒や育兒を忌避する者も生ずべきであります。是れ人性及國家の爲に向上隆昌を阻碍することゝなります。故に父母に孝行するは常に其の家庭に於ける善業であるのみならず、廣く人性の爲に功勳を立つることゝなるのであります。此の點から觀ましても共產黨は孝道を解消しますから人性の向上を阻碍すべきであります。

親が如何に深く其の子を愛する乎に就いては左の和歌が之を言ひ

顯はして居ます。

「世の中に思ひはあれど子を戀ふる思ひにまさる思ひなき哉」

紀 貫 之

「子を思ふ親の重荷の四手かごしばしも休む息杖もなし」

「はへば立て立ては歩めの親心われに寄り來る年は忘れて」

二 宮 尊 德

親心は殆ど各動物に本能的に備りありますれど孝心は只靈長たる人類に限りて備はれる徳性であります。故に孝は人類の一つの特徴とも認むべきであります。孝が如何に貴要の徳行なる乎に就いては次に列記します。

貴要なる孝行

(一) 孔子曰く

「孝は徳の本なり、教の由りて生ずる所なり」(孝經)。

「父在せば其の志を觀、父没すれば其の行を觀、三年父の道を改むる無きを孝と謂ふべし」(論語一ノ十二)。

「今の孝は是れ能く養ふを謂ふ、犬馬に至るまで皆能く養ふことあり、敬せずんば何を以て別たんや」(同二ノ七)。

「吾が黨の直きは是に異なり、父は子の爲に隠し、子は父の爲に隠す、直きこと其の中に在り」(同十三ノ十九)。

「身體髮膚之を父母に受く、敢て毀傷せざるは孝の始なり。身を立て道を行ひ、名を後世に揚げて以て父母を顯はすは孝の終なり」

「夫れ孝は親に事ふるに始まり、君に事ふるに中し、身を立つるに

終る』(孝經)。

(二) 醫蘇基德バリサイ人らを責めて曰く「汝らは神の誠律を棄て汝らの傳説を以て之に代へたり、例へばモーセ曰く「汝の父母を敬へ又父又は母を罵る者は死刑に處せらるべし」と然るに汝らは云々」マルコ傳七ノ九—十一)。

(三) 明治天皇の御製に曰く

『むらさきの心つくして報いなん

あふしたてたる親のめぐみに』。

『たらちねの親の心を慰めよ

國に務むるいとまある身は』。

(四) 「汝は汝の父母を敬ふべし、是れ主なる汝の神が汝に與ふる土

地に於て汝が長く生きん爲なり」(出エジプト記二十ノ十二は十誠中の第五條にして、道德律の第一であります(蓋し第一乃至第四條は神に關する宗教律です)。

(五) 佛陀曰く「世間、出世間の恩に四種あり、一には父母の恩、

二には衆生の恩、三には國王の恩、四には三寶の恩なり」(心地觀經)。

(六) 孟子曰く

『大孝は終身父母を慕ふ、孝子の極は親を尊ぶより大なるはなし』。

(七) 明治天皇御製に曰く

『たらちねの親の御前に在りと見し

夢の惜くもさめにけるかな』。

(八) 明治天皇の勅語に曰く

『我が臣民克く忠に克く孝に億兆心を一つして世々厥の美を濟せ  
るは此れ我が國體の精華にして、教育の淵源も亦實に此に存す』

『爾臣民父母に孝に』あれ。

(九) 後漢書に曰く『孝は百行の本、衆善の初なり』

(十) 孝の字解に曰く

孝(カウ、ヨクおやニツカフ)は老と子との合字にして老は考(ち  
ち)なり、親の心を承け繼いで慎み行ふなり。又老は毛と人と倒さに  
書いたる人(即ち變化の化の字の本字)の象形の合字であり又子は頭  
の大きな子の象形である(高田忠周、大系漢字明解)。

#### 信仰と忠孝の生活法一斑

(一) 天 祖 主神に奉仕して瞬時も背くことなかるべき事。

(理由) 『忠臣は二君に事へず、貞女は兩夫に見えず』の語ある如く、  
吾人も常に天 祖 主神に奉仕するを要します。片時も心を他の諸神  
に向けて主神を忘ることがあつてはなりません。他の神々を禮拜す  
る場合にも其の神々を透して主神を禮拜すべきであります。又祈禱  
は専ら主神に奉ぐべきであります。其の以外に爲してはなりません。  
吾人は一生を通じて主神に密接して生活すべきであります。  
(二) 神教は最も進歩したる宗教であります。多神教は幼稚時代に屬  
します。汎神教(佛教の如き)や無神教(唯物主義者、マルクスの如  
き)は現實活在し恩養しつゝありたまふ主神の御前に不敬罪を犯し  
て居るのであります。

(二) 清氣を呼吸するを怠るべからざる事。

(理由)呼吸は飲食よりも大切であります。其の呼吸は酸素を吸入すると共に炭酸と人毒(毒氣)を呼出する爲であります。呼吸は目に見えぬ大小便の如き不潔有害なる者であります。故に呼吸は直ちに之を遠ざけ、其の混じらざる清氣を吸入せねばなりません。之が爲には空氣が常に流通するを要します。故に戸外に居る乎又は窓戸を多少開放せねばなりません。夜中にも寒中にも居室の二方面以上に空氣の出入口を開き以て戸外の新鮮なる空氣が入り、室内の不潔空氣が流出する様にせねばなりません。居室に居る人が多ければ、其れだけ空氣を多く汚しますから、換氣を増加せねばなりません。又喫煙する者があれば空氣は一層多く汚されます。又火鉢は恐るべき一酸化炭素を多量に發散しますから成るだけ之を用ゐず、若し用

ゐねばならぬ時は炭火を成るだけ少くし且つ窓を多く開いて換氣を促進せねばなりません。又瓦斯管より燃えぬ瓦斯が漏るゝことあれば矢張り一酸化炭素の中毒に陥りますから注意せねばなりません。又塵埃の飛散する場所では綿花を含めるマスクを製しまして之を以て鼻と口を覆ふて居れば害を免がれます。若しマスクのない時は綿花の小片を呼吸に障らぬ程度に兩鼻孔に挿入して居ても防げます。

### (三) 禁酒禁煙を勵行すべき事

(理由)『惡小なるを以て爲す勿れ善小なるを以て爲ざる勿れ』てふ語があります。隨神忠孝の人は必ず之を守らるゝ事と信じます。天佑神助は吾人に必要であります。眞心を以て神に奉仕すること



に由りて之を賜はるべきであります。敵に勝たんと欲すれば先づ己に克たねばなりません。アルコールもニコチンも麻酔薬であります。慢性中毒に陥りたる者には興奮薬と成つて之を用ゐざれば作用し得ない者もあります。其は氣の毒の至りであります。殊にアルコールが健康を害し、心身の機能を害し、生命を縮め、家庭を害し、子孫を害し、社會を害し、國家を害することは極めて顯著なる事實であります。

昭和十三年七月二十八日印刷  
 昭和十三年八月十一日再版印刷  
 昭和十三年十月十八日再版印刷

正價五拾錢

著述者兼

東京市麴町區九段四丁目十五番地  
 高田 畊 安

印刷者

東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 柴山 則 常

發行所

神奈川県高座郡茅ヶ崎字南湖  
 南湖 院

發賣所

東京市京橋區銀座西八丁目九番地  
 警 醒 社  
 電話銀座千五百八十七番  
 振替東京 五百五十三番



終

